

Hjalmar Söderberg 「Historietter」における表象としての「接吻」  
～同時代の作家・芸術家との比較において～

スウェーデン語専攻 竹内あゆみ

目次

1. はじめに
  2. 作家の生い立ちと人物像
  3. 作品分析
    - 3.1. 『毛皮』作品あらすじ
      - 3.1.1. 『毛皮』作品分析
    - 3.2. 『煙突掃除屋の奥さん』作品あらすじ
      - 3.2.1. 『煙突掃除屋の奥さん』作品分析
    - 3.3. 『罪の報い』作品あらすじ
      - 3.3.1. 『罪の報い』作品分析
    - 3.4. 三作品のまとめと共通点
  4. 同時代の作家・芸術家の作品に用いられた「接吻」の表象
    - 4.1. クリムトの「接吻」
    - 4.2. ムンクの「接吻」
    - 4.3. 夏目漱石の「接吻」
  5. まとめ
- 使用テキスト
- 参考文献

## 要約

ヤールマール・スーデルバリ (Hjalmar Söderberg, 1869 - 1941) はスウェーデンのジャーナリスト、翻訳家、小説家である。彼は19世紀末の所謂「世紀末ウィーン」と呼ばれる時代に生き、その生涯において小説だけでなく戯曲や宗教書など多岐にわたる文学作品を残した。

本稿はスーデルバリ研究の第一人者 Bure Holmbäck 氏の「スーデルバリの作品には“接吻”のモチーフが散見され、いくつかの接吻の物語は悲劇的な結末に向かう」という記述に端を発しており、スーデルバリの短編集 *Historietter* を用いて、世紀末時代の芸術家との比較において「接吻」表象が「悲恋」や「死」などの悲劇的な結末に向かう一定の傾向を見出すことを目的としている。

第一章においては「接吻」という単語の辞書的な意味に触れつつ、本稿で扱う「接吻」を「性愛としての接吻」と定義した。まず「接吻」表象を取り上げた有名な芸術作品としてクリムトの『接吻』を取り上げ、同じく世紀末時代に生き、「接吻」表象を好んで用いたとされるノルウェー人画家のムンク、日本人作家の夏目漱石も比較対象として検討していくことを示した。

続く第二章においてはヤールマール・スーデルバリという人物について主に *Litteratur Banken* の記述からその人物像や作品全体に共通するテーマを紐解いていく。学生時代のスーデルバリや、彼が好んだ作家について触れ、それらが彼の人格形成や作風にどのように影響を与えたのかについて考察した。

第三章では短編集 *Historietter* に収録される「毛皮」“Pälsen”，「煙突掃除屋の奥さん」“Sotarfrun”，「罪の報い」“Syndens lön” の作品分析を行い、三作品の共通点を導いた上でスーデルバリ作品における「接吻」表象には「人は自らの運命を選ぶことが出来ない」という共通テーマが見られると分析した。

第四章ではスーデルバリと同じく世紀末時代に生きた芸術家たちの作品を分析し、彼らがどのように「接吻」表象を扱ったのか、どのような意味を持たせたのかについて考察する。クリムトの章では中山功氏による『美術の中の接吻』(2004)に依拠して、絵画『接吻』の分析において『ベートーベン・

フリーズ』という前身の作品に焦点を当てた。この作品はベートーベンの『交響曲第九番』及び『歓喜の歌』から着想を得ている。クリムトは『歓喜の歌』に込められた民衆の高揚感に、中世騎士道物語の要素を加え、男女の抱擁を最終場面に描いたことが分かった。また、ムンクの章では『接吻』はムンクの自伝的作品であるという論を示すと共にムンクの生涯や彼の「愛」や「死」への価値観や彼の「接吻」表象に付き纏う仄暗さについて考察した。そして世紀末時代の日本ではどのように「接吻」表象が描かれたのか考察するために、夏目漱石について検討した。漱石はイギリスへの留学経験からヨーロッパ文化の影響を強く受けており、アーサー王伝説を題材とした作品を執筆するなどしていた。しかし、漱石は自身の作品においてヨーロッパ文化をただ模倣するのではなく、彼独自の美意識を表現しており、殊に「接吻」表象の描き方には強いこだわりがあったことが分かった。

最終章の第五章ではスーデルバリ、クリムト、ムンク、夏目漱石らが表現した各々の「接吻」表象の相違点を述べ、当時流行していたデカダンスの影響やヨーロッパ地域で長らく親しまれてきた中世騎士道物語の影響を改めて指摘した。そして芸術家たちが近代化によって疲弊していく人間や疫病の流行などの中に漠然とした不安を見たことを推察し、「接吻」表象の中に彼らが各々の人生において経験した挫折や死といったテーマを織り込み、結果として悲劇的な「接吻」として描くことを当時好んだのではないかと結論付けた。